

CFFマレーシア 報告会

— 2011年1月16日 —



@ 仙川キリスト教会

報告書

目次

一. マレーシア応援団とは

二. CFFマレーシアの歩み

- マレーシアについて

- 2008年キャンプ報告

- 2009年キャンプ報告

- 2010年キャンプ報告

- 社会人キャンプ報告

三. 報告会の感想

1/16 当日のタイムテーブル

<<第1部>>

・あいさつ

・マレーシア応援団の目的

・CFFマレーシアの歩み

<<第2部>>

・現在のマレーシア

・想いのシェア

<<第3部>>

交流会

CFFマレーシア応援団

Thank you!!

プロジェクト ~



2011年1月16日

マレーシア事業報告会@仙川教会

1

【マレーシア応援団設立の背景】

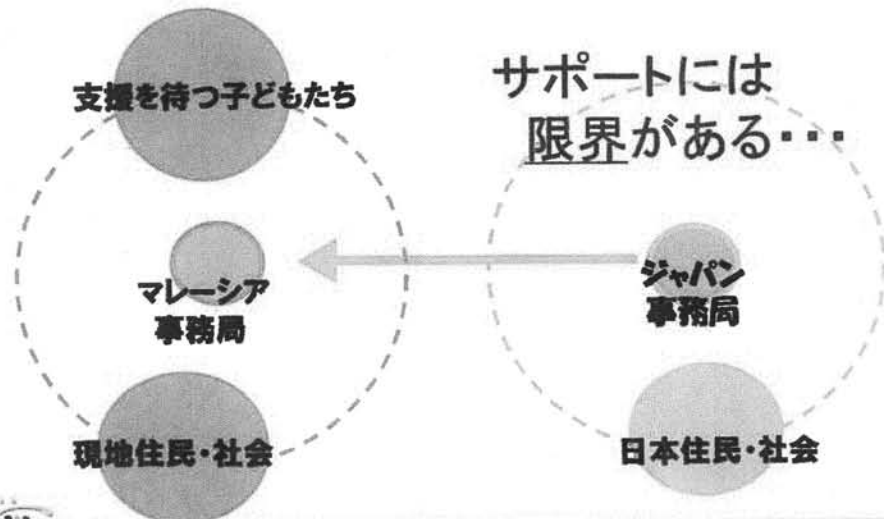
2011年にマレーシア「子どもの家」に
子どもを受け入れることが決定！

日本からも“一層”
マレーシアを
応援したい！！

2

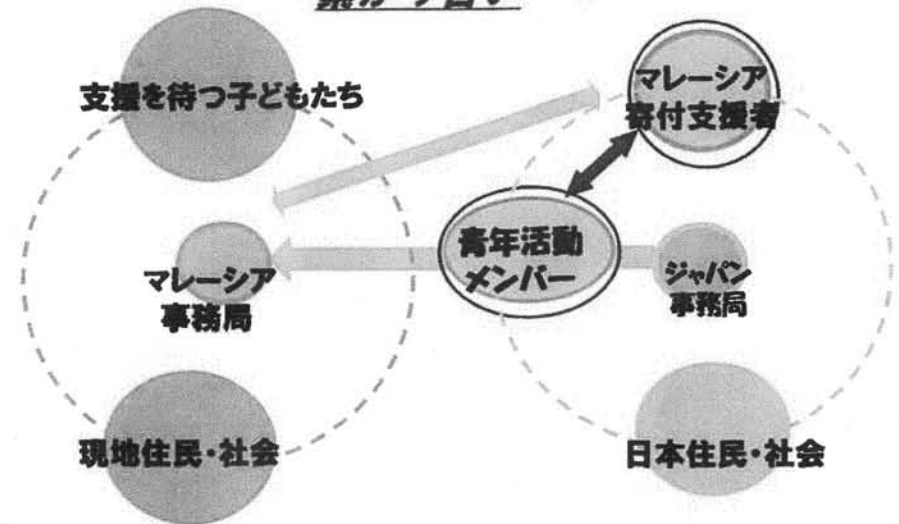
【現状】

しかしCFF日本事務局だけの力では



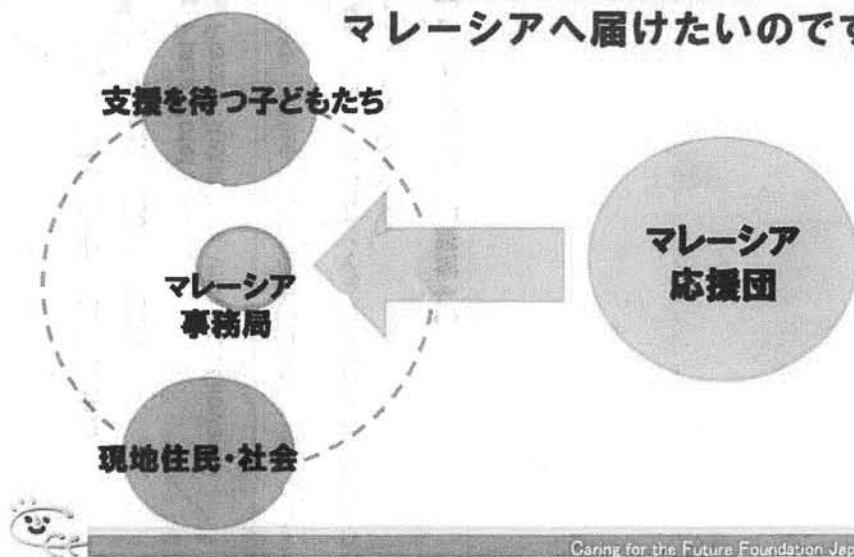
3

そこで、現在それぞれに支援している皆が
繋がり合い.....



4

【今後】 ひとつのマレーシア応援団となり
 一層の大きな支援を
 マレーシアへ届けたいのです！

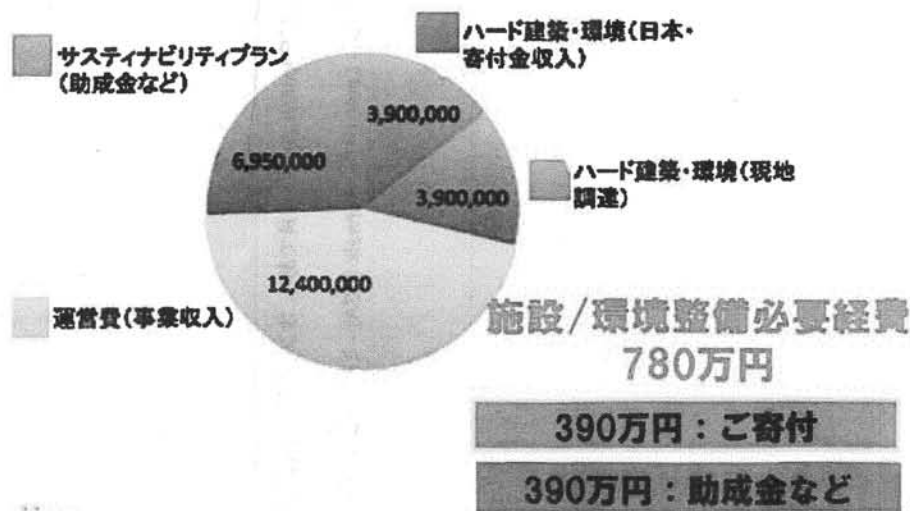


【さらに】
 2011年にマレーシア「子どもの家」に
 子どもを受け入れるためには

《施設・環境の整備が必要》 (2011年~12年)

- 施設：「子どもの家」第二棟、第三棟、及びスタッフ棟
- 環境：①整地、道路整備 ②雨水タンクシステム
 ③セキュリティシステム ④土地購入(欠落箇所)

2011~2012年までのCFFM必要資金



【つまり】

CFMマレーシア応援団
“Thank you”プロジェクト！とは？！

2011年~2012年に、
 マレーシア事業の支援基盤を創りつつ、
 390万円の資金と
 390人の支援者を
 集めよう！集めたい！！

CFFマレーシア応援団 “Thank you”プロジェクト!

CFFマレーシア応援団!



CFFマレーシア「子どもの家」



これからもご支援よろしくお願いいたします!!



* 2008 年度ワークキャンプ報告 *

GFF マレーシアのワークキャンプ事業は 2008 年に始まりました。日本と現地の青年を集い、児童養護施設建設予定地周辺の環境整備を行ってきました。2008 年には春・夏に計 4 回のキャンプが行われました。

1 回・2 回キャンプで中心となった作業は道づくり！その当時は車が入れる道も整備されていませんでした。鍬(くわ)で雑草を取り、耕し、砂利を敷き詰めました。側溝にレンガを積み、入口付近に雨にも負けない道をつくりました。

道づくりの様子と道⇒



3 回・4 回キャンプでは、こどもたちが休む東屋作りを行いました。土地を平らに整地し、森から竹を切って運びやすりをかけ、骨組みをつくり屋根を張り、床にセメントを流し込めば完成です。

また、始まって 1 年目のキャンプだったため今後のキャンプを支える倉庫や物干し場、ゴミ焼却炉も作られました。

東屋⇒



私が参加した第一回キャンプは、電気は発電機(よく停電しました)、宿泊するバンブーハウスも建設途中という状態で行われました。キャンプ後半に大雨でつくった道が流されるといふハプニングも起き、本当に毎日が新鮮で何が起こるか分からない 14 日でした。

だけど、今になって心から、あのキャンプは小さな一歩であっただろうけれど、きっと大きな意味のあったキャンプだったのだと思っています。あの道を通してこどもが入ってくると思うと、言葉にならない気持ちでいっぱいになります。私を、そして GFF マレーシアの未来を変える一歩をくれたあのすべての瞬間に、感謝しています。

「ひとりひとりの力で GFF マレーシアをつくっているのだ」という意味を込めて、

キャンプ参加者全員で殺風景なバンブーハウスの壁画描きもしました⇒

マレーシアワークキャンプ第一回参加者
マレーシアスタビータ第二回リターナー 林 優美(やまひつ)



2009 年度ワークキャンプ報告

2009 年度は主に

- ・ 道づくり
- ・ 橋の補修作業
- ・ 排水溝づくり
- ・ フェンス作り

を中心に、第5～8回キャンプの計4回のキャンプが行われました。



↑道作りの様子



↑洪水で壊れた橋を直しました

私の参加した第7回キャンプでは、洪水で壊れた橋の補修作業・子どもの家の敷地と近隣の敷地の境に排水溝を作る作業を主に行いました。私は特にこの橋の補修作業に思い入れがあります。

この橋は CFF マレーシアに入ってすぐのところに架かっており、訪れる人は必ず渡る橋です。さらに、敷地内に今後子どもの家の施設を建設する際は、この橋を大きなトラックが入る必要もあり、とても重要な役割を担っています。

そんな大切な橋が、川の洪水のため大きくえぐられ、とても脆い状況になっていました。えぐられた空洞に石を詰め、セメントを塗り、また石を詰め・・・といったように作業はとても単調でした。炎天下の中、ひたすら石を運んでいる自分に、「この作業は本当に意味があるのだろうか」と思ってしまうこともありました。

しかし、完成した橋をみんなで眺めた時、この橋を通して「いってきます！」と学校に出かけ、「ただいま！」と帰ってくる子どもたちの姿が目につかび、未来の子どもたちの笑顔の「架け橋」になったワークだったと確信しました。

皆さんも CFF マレーシアを訪れた際には、多くのキャンパーの想いが詰まった想いを感じ、ぜひ踏みしめてこの橋を渡って頂ければとても嬉しいです。

(第7回・12回参加 小野 沙織)



2010年ワークキャンプ

報告

春に行われた9回キャンプでは、子どもの家の入口の橋からロータリーまでのコンクリートの道づくりを行いました。また、次の10回キャンプでも同様に、ロ

ータリーから子どもの家第一棟に続くコンクリートの道づくりを行いました。

(9回キャンプでの道づくりの様子)



そして、夏に行われた11回キャンプと12回キャンプでは、子どもの家メインハウスに続く道の土台づくりとバンパーハウス横のバルコニーづくりを行いました。

これからバルコニーはキャンパーや子どもたちの憩いの場所となることでしょう。

このように、2010年は、9回から12回までキャンプが行われました。

(11回キャンプでの道の土台づくりの様子)

ワークをしながら一番感じたことは、一人ひとりの力は小さいけれど、その力が合わされば大きなものが生まれるということです。炎天下のなかのワークは決して楽なものではないし、一人ひとりができることは限られています。でもそのなかで、自分にできることをみんなが探し、それを協力して行うことで、気がついたら道がどんどんできていました。私たち一人一人にできることは小さくて限られているけれど、それが合わされば何か大きなものが生まれる。これはワークだけでなく、もっと大きい範囲でもいえることではないかと思います。例えばマレーシアのこれまでのキャンプもそうです。現在まで12回のキャンプが行われてきましたが、その一つひとつの小さな積み重ねがあるからこそ今があるわけで、ここまでつなげてこれたことを幸せに思います。現在のマレーシア子どもの家には、今までキャンプやツアーに参加したみんなの想いがたくさんまっています。

そんな希望にあふれる場所に今年ついに、子どもが入ることは私たちキャンパーにとっても本当に嬉しいことです。

文責：2010年マレーシアワークキャンプ10回プログラムリーダー 砂川ちなみ

マレーシア社会人キャンプ報告

去る6月24日(土)にマレーシア・社会人ワークキャンプ 第2・3回

私は現在、知的障害の4度で、一般事務の仕事に就いてから、今年で丸10年目になりました。昨年の第2回、そして今年の第3回マレーシア社会人ワークキャンプに参加しました。普段私は、事務作業でデスクワークが中心なので、実際にキャンプに参加して初めて思ったことは、体力不足を思いっきり痛感致しました。

第2回のキャンプでは、バンガローハウスの食堂前に道を作り出した。機械を使用せず、手作業を全てで行いました。慣れない環境の中で、軽い熱中症で、他のメンバーに迷惑を掛けてしまった部分はありました。日本人、マレーシア人メンバー皆の力で完成出来た事は物凄く感動しました。それと、キャンプ期間中、ワークを始める前に皆で輪になって、MCコールをするのですが、物凄く気合いが入りました。

そして、今年の第3回社会人ワークキャンプでは、初めてマレーシア人と日本人がペアを組んで3色作りの作業をしました。今回のキャンプでは、具合が悪くなったリせず、ワークをしっかりとやりとげたいというテーマを持ってワークキャンプに臨みました。しかし、目標を達成する事が出来ず、自分の中では悔いの残るキャンプになってしまいました。それでも昨年は登ることが出来なかった丘の上に登ったり、ワーク最終日にみんなを代表して稚魚を放流したり、MCコールの声掛けを自分から進んで出来たりしたことは、大きな励みになりました。

いよいよ来年からは子どもを受け入れるという事になりますが、来年の社会人ワークキャンプに参加出来る事が出来たら、今年達成する事が出来なかった目標を達成させて完全燃焼したいと思います。

最後に、2回のキャンプを通して未だ自分にとっては課題の多い事ばかりですが、いくつかキャンプで学んだ事を生かせれば良いなと思えました。

有難う！ (テレマカシー)

第2・3回 CFFマレーシア・社会人ワークキャンプ
松尾 章司



マレーシア報告会をやって

報告会中、みんなのシェアを聴いていて、何度も泣きそうになりました。みんながマレーシアに行き行って感じたあたたかい思い、そして帰ってきてからも消えないマレーシアに対する思いにふれたからです。

また、報告会に来てくださったみなさんのまっすぐなまなざしにもたくさんの思いや希望を感じました。

人の思いが世界を動かす。これからも、たくさんの人の思いが世界中に愛と笑顔をもたらしますように。

マレーシアキャンプ 第8回参加

丸山 恵実



* 報告会の感想～マレーシアへの思い～



「なごみに携わりたい」という思いで初めて参加したマレーシアのワークキャンプから1年半。子どもたちのための「子どもの家」をはじめ、キャンプやツアーを現地に赴く私たちにとっても学び多く、また帰ることのできる大切な場所になっています。

報告会も、今まで直接お会いすることのできなかったCFFマレーシアの支援者の方にお会いし、日本からこいにも一緒にマレーシアを応援して下さいたいことへの強さを感じました。皆さんの感謝の気持ちがいなくなり、思いをいつに感じて頂く機会となりましたら、とても嬉しく思います。

第7回・12回マレーシアワークキャンプ参加

小里 沙織

私がマレーシアに行ったのはちょうど1年前のことです。それからというもの、マレーシアが大好きになりました。

ゆっくりと流れる時間、豊かな自然、人々の笑顔、ごはん...自分とはまた違った生活があって、同じ空の下で共に時間を刻んでいる。当たり前のことだけれど、考えるだけで不思議と温かな気持ちになります。

マレーシア子どもの家のこれからのことを知った際、地球と子どもたちの未来に繋がるビジョンと想いにとっても感動しました。CFFで感じた温かな気持ちを、マレーシア応援団の活動を通じて現地に還元していきたいです。

幸せの基準はそれぞれだけれど、子どもの家は笑顔や希望に繋がっていると信じています。子どもの家の未来がとっても楽しみです☆

第4回マレーシアスタディーツアー参加

中満 あゆみ (ちゅうまん)